

令和7年度学校自己評価システムシート (県立鶴ヶ島清風高等学校)

目指す学校像	地域に貢献できる人材の育成
--------	---------------

重点目標	1 「自ら考える力」の育成 2 「健全な職業観・勤労観」の育成 3 地域との連携・協働による「地域参画力」の育成
------	----------------------------------------------------------------

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	9名

学校自己評価							
年度目標			年度評価(1月22日現在)				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	■現状 ・教員相互の授業公開週間の設定や生徒の学力向上に資する教員研修の実施などの取組が展開されている。 ・指導者用端末を活用した授業実践や「個別最適な学び」「協働的な学び」「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めている。 ■課題 ・ICTを活用した「個別最適な学び」による生徒の学力向上と教員の教科指導力向上を図る必要がある。 ・社会の変化に対応し、自ら課題を発見し解決する力や、多様な価値観を持つ人々と「協働的な学び」により新たな価値を想像する力を育む必要がある。 ・「主体的・対話的で深い学び」の実践で自己効力感ややり抜く力などの非認知能力を更に向上させる必要がある。	学校におけるDXによる校務効率化を活かした、教科指導力の向上	①「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向け、各教科等の特質に応じてICTを活用した新たな教材や学習活動等を学習指導に取り入れる。 ②「主体的・対話的で深い学び」の視点を持った授業改善や教科等横断的な学習を進めるとともにチームで問題を解決し、学校外での発表を行い、取り組みを広くアピールする。 ③データサイエンスの基礎的な手法を用いた教科等横断的な学習や探究活動を行う。 ④学校におけるデジタルトランスフォーメーション(DX)による校務効率化を活かし、教科指導力向上を図る取り組みを総合的かつ計画的に行う。	①指導者用端末の利用実績が前年度を上回り、学習指導にICTを活用した新たな教材や学習活動等が取り入れられたか。 ②③教科等横断的な視点での学習活動とデータサイエンスの手法を用いた探究活動が実施し、学校外での発表ができたか。 ①②③④「学校評価アンケート」の授業理解度に関する調査項目の肯定回答割合が75.1%(昨年度72.9%)であった。 ①②③④「学校評価アンケート」の学習指導に関する調査項目の肯定回答割合は87.3%(昨年度92.1%)であった。 ④紙起案と並行して、DocuWorksによる電子起案・決裁を導入した。	■ICTの活用も含めた授業の更なる工夫・改善が必要 ①②学力向上推進委員会によるClassiNOTE活用研修を実施した。 ②③鶴ヶ島市のPR動画作成について、県教委主催の令和7年度探究活動生徒発表会において発表を行った。 ③「学校評価アンケート」の授業理解度に関する調査項目の肯定回答割合は75.1%(昨年度72.9%)であった。 ①②③④「学校評価アンケート」の学習指導に関する調査項目の肯定回答割合は87.3%(昨年度92.1%)であった。 ④紙起案と並行して、DocuWorksによる電子起案・決裁を導入した。	B	■次年度への課題 ・ICTを活用し、「個別最適な学び」による生徒の学力向上と教員の教科指導力向上を図る必要がある。 ・「主体的・対話的で深い学び」の実践で自己効力感ややり抜く力などの非認知能力を更に向上させる必要がある。 ・社会の変化に対応し、自ら課題を発見し解決する力や、多様な価値観を持つ人々と「協働的な学び」により新たな価値を想像する力を育む必要がある。 ■改善策 ・ICTを効果的に活用し、教科指導力向上を図る取り組みを総合的かつ計画的に行う。 ・「主体的・対話的で深い学び」の視点を持った授業改善や教科等横断的な学習を進めるとともにチームで協力して問題を解決するとともに、学校外での発表を行うことで、取り組みを広くアピールする。
2	■現状 ・体系的・系統的な本校独自の「キャリア教育プログラム」を実施し、コミュニケーション能力や社会性の育成を含めたキャリア教育を展開している。 ・学校生活のルール、マナーやモラルを理解し、遵守する指導を行うとともに、授業や学校行事等において生徒が主体的に活躍する場の創出を進めている。 ■課題 ・インターンシップの取組をより社会人・職業人として必要な資質を実感し、日々の学校生活に主体的に取組む必要がある。 ・一人一人の状況を丁寧に把握し、個々に応じた教育を更に推進する必要がある。 ・公共の精神に基づき個人と社会との関係を適切に理解するとともに、主体的に社会的課題の解決に向けた行動が取れるようにする必要がある。	組織的な生徒指導の展開とインターンシップ等を活かしたキャリア教育の更なる充実	①「鶴ヶ島清風アカデミア」での探究活動を中心に、家庭や地域・企業等と連携した職場体験やインターンシップを活かし、実効性のあるキャリアガイダンスを推進する。 ②組織的な生徒指導を展開するとともに、多様な人材と協働する力の育成を最大限に行う場と方法の実現に向けた学校行事、探究的な学習や体験学習を実施する。 ③他者への謝意を示せる人になるために、思いやりの心と規範意識を培う指導を全教職員の共通理解のもと実践する。 ④教育相談活動や特別な教育的支援などの教育的ニーズの多様化に対応するための教職員の専門性の更なる向上と校内体制を整備する。	①②「鶴ヶ島清風アカデミア」での探究活動や体験学習をベースに置く本校独自の「キャリア教育プログラム」が実施できたか。 ①②「学校評価アンケート」の進路指導に関する調査項目の肯定回答割合が9割程度になったか。 ①②③④3年次生徒の第1志望進路の実現率が9割程度になったか。 ②③「学校評価アンケート」の生徒の目標設定に関する調査項目や学校生活に関する調査項目の肯定回答割合が9割以上になったか。 ③④外部関係機関、SCやSSSWとの連携や面談等によって生徒の個別状況を早期に、かつ的確に把握し、教育的ニーズの多様化に対応できたか。	■地域に貢献するために必要な他者との関わり方の理解・醸成が更に必要 ①「鶴ヶ島清風アカデミア」におけるインターンシップ、各種ガイダンスなど地域企業や機関等と連携した取組が充実した。 ①③「学校評価アンケート」の進路指導に関する調査項目の肯定回答割合は62.2%(昨年度66.0%)であった。 ①②③④3年次生徒の第1希望進路の実現率(12月末現在)は93.4%(昨年度94.3%)であった。 ③④外部関係機関、SCやSSSWとの連携や面談等によって生徒の個別状況を早期に、かつ的確に把握し、教育的ニーズの多様化に対応した。 ③④「学校評価アンケート」の生徒の目標設定に関する調査項目の肯定回答割合は90.9%(昨年度88.5%)で、学校生活に関する調査項目の肯定回答割合は82.7%(昨年度85.8%)であった。	B	■次年度への課題 ・インターンシップの取組でより社会人・職業人として必要な資質を実感し、日々の学校生活に主体的に取組む必要がある。 ・一人一人の状況を丁寧に把握し、個々に応じた教育を推進する必要がある。 ・思いやりの心と規範意識の育成に向け、規律ある態度を持った行動が取れるようにする必要がある。 ■改善策 ・家庭や地域・企業等と連携した職場体験やインターンシップを充実させ、進路実現に向けた指導を推進していく。 ・教育相談活動や特別な教育的支援などの教育的ニーズの多様化に対応するための教職員の専門性の更なる向上と外部機関との連携を推進する。 ・全教職員での組織的な生徒指導を展開するとともに、学校行事、探究的な学習や体験学習を通じた多様な人材と協働する力の育成を行う。
3	■現状 ・県立高校の再編整備による開校以来、鶴ヶ島市内唯一の高校として地域から信頼される学校づくりを進めている。 ・学校・家庭・地域が相互に理解を深めて連携・協働しながら地域に根差した教育活動の多様化・活性化を図るとともに、学校内外の教育環境の改善や充実を進めている。 ■課題 ・地域資源を活かした教育活動や地域貢献活動等を更に推進する必要がある。 ・県内公立中学校卒業生数及び全日制高校希望者の減少傾向を踏まえた学校広報活動の取組を模索する必要がある。	地域資源を活かした学習環境づくりと本校及び鶴ヶ島市の魅力を高める取組	①第6次鶴ヶ島市総合計画及び「協働教育ネットワーク会議」での意見・提言等を踏まえ、学校・地域の双方が「WIN-WIN」となるような取組と併せて中学生や地域住民をはじめとする県民の本校及び鶴ヶ島市の魅力の認知度を高める取組を実践する。 ②学校の働き方改革を推進するために学校・家庭・地域のそれぞれが適切な役割分担を果たし、教育に関するバランスを考慮しながら相互に連携した教育活動を展開する。 ③家庭を取り巻く環境の変化に対応できるように教職員の資質・能力を向上させるとともに、PTA、関係機関や企業等と連携した家庭教育支援体制を構築する。	①学校Webサイトの閲覧数が平均4,000件/日を超えるとともに、「学校評価アンケート」の学校広報(学校Webサイト・Classi・メール配信)に関する調査項目の肯定回答割合が9割程度になったか。 ①学校説明会の生徒ボランティアの人数が前年度比1.1倍以上に増加したか。 ①②③「協働教育ネットワーク会議」やPTA活動等、学校・家庭・地域が繋がる仕組みが円滑に機能し、PTA、関係機関や企業等と連携した授業や学校行事等における取組の実施件数が昨年度を上回ったか。	■学校・家庭・地域との連携・協働による教育活動の充実が概ね実現 ①学校Webサイトの1日平均閲覧数(12月末現在)は約4,300件(昨年度約4,600件)で3,000件/日を超えるとともに、「学校評価アンケート」の学校広報に関する調査項目の肯定回答割合は保護者91.5%(昨年度94.0%)であった。 ①学校説明会の生徒ボランティアの人数が前年度比1.1倍を上回った。 ④学校説明会に参加した中学生及びその保護者の満足度(12月実施分まで)は100.0%(昨年度94.6%)であった。 ①②③市や地域の事業(第76回鶴ヶ島市民体育祭への参加等)、初任者研修における民間企業研修の市内飲食店での実施、約57の事業所におけるインターンシップ、市民センターでのボランティア活動、学校HPに広報つるがしまへのリンク設置、近隣保育施設との実習授業や大学等の授業聴講等、地域や外部関係諸機関等と連携した取組の実施件数は昨年度以上となった。	A	■次年度への課題 ・地域資源を活かした教育活動や地域貢献活動等を更に推進する必要がある。 ・県内公立中学校卒業生数及び公立全日制高校希望者の減少傾向を踏まえ、学校広報活動の取組を模索する必要がある。 ■改善策 ・令和8年度から学校運営協議会を設置し、学校・地域の双方に「WIN-WIN」となるような取組と併せて中学生や地域住民をはじめとする県民の本校及び鶴ヶ島市の魅力の認知度を高める取組を実践する。 ・家庭を取り巻く環境の変化に対応できるよう教職員の資質・能力を向上させるとともに、PTA、関係機関や地域企業等と連携した家庭教育支援体制を構築する。

学校関係者評価	
実施日	令和8年1月30日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
■評価項目(年度達成目標)1に対する学校自己評価年度評価の達成度Bは妥当である。 ・文書管理ソフトウェア導入は、紙起案と並行とのことだが、今後の事務の効率化を期待する。 ・授業などICTの活用はできているのではないかと感じる。ICT活用できている反面でSNS等の使い方など、さらに強化してほしい。 ・ICTの活用も大事だと思うが、授業中の態度、例えば人の話を聞く、今何をしたいと聞かないのか考える力はつくのか。 ・パワーポイントを作って班で発表するというのを聞き、作ったものをみたり、アドバースしたり、親子のコミュニケーションにもなったので良いと思う。	
■評価項目(年度達成目標)2に対する学校自己評価年度評価の達成度Bは妥当である。 ・今年度は3名の方にインターンシップで文化財関係の仕事を担当いただき、体験範囲は限定的だったが、行政の仕事を感じるきっかけになったと思う。 ・インターンシップや大学見学、進路見学を通して、将来について考える機会が増えたと感じた。 ・進路希望見学会はとても良いかわかりだと思う。進学を考えている生徒は多いと思うので、1年次にももう少し進路説明があっても良いと思う。 ・進路ガイダンスの実施は、とても生徒にとって良いと思う。先生方も力を入れていて安心してできる。ルールを守ることにももう少し力を入れてほしい。	
■評価項目(年度達成目標)3に対する学校自己評価年度評価の達成度Aは妥当である。 ・インターンシップ受け入れ時が定期的に昭和100年関連の展示作業などであり、鶴ヶ島の歴史にふれる業務は、地域を知るきっかけになったと考える。 ・地域の方との交流の機会はこの学校を見ても多くの交流の機会があると思う。 ・地域と関わる活動を通して、地元への理解が深まった。 ・起業したばかりの方と魅力を伝えるための動画作りなどで伝えることを本校の生徒や教師は積極的にやっている。 ・学校での様子、連絡が早いのでとても助かっている。 ・今、鶴ヶ島で行っているPR活動と連動できると良いと思う。 ・地域に生徒全員が地域に家庭・学校に貢献できるように声掛けやサポートしてほしい。	